



///// 第69回 中学校卒業式 2023年3月23日(木) /////

美しい花を咲かせるために

洛星中学校 校長 小田 恵

今年は全国的に開花が平年より8日ほど早まり、学園内の桜も4月の入学式を待ちきれずに、咲き始めました。新しい年度を迎えるための励ましのように思えます。

皆さんは気づいていますか？通用門のそばで日々皆さんを迎えてくれる桜の樹の枝が間伐されてすっきりとしていることを。大きな桜の樹は、いっぱい枝をのばして、毎年見事な花をつけて私たちを楽しませてくれていますが、実は老木で幹にも空洞があいているようです。あのまま何も手入れしないで枝を伸び放題にしておくと、見た目だけでなく、花のつきも悪く、樹木本体も疲弊してしまい花を咲かすことはできません。先日専門の方が枝打ちをして、すっきりとした姿になり、今年も見事な花を咲かせてくれそうです。

どの枝を遣し、どの枝を落とすのか。プロの職人は一本一本、的確にみきわめ、桜の花の魅力と生命力を最大限に引き出していきます。

人間も桜の樹と同じではないでしょうか。花を咲かすまでには時間がかかること、花が咲くには冬の寒い時期や暗さも必要なこと——人間についても、学びの場面だけでなく、さまざまな課外活動において、すぐに成果がでるはずがなく、一見無駄に見えること、面倒なこと、辛い時期を経験してはじめて得るものがあるのです。ただ、毎年春に一斉に花をつける桜とはちがって、人間は個人個人によって「冬」の長さや「春」の訪れのタイミングが違うので、より忍耐が求められるかもしれません。

今、皆さんにとって重要なのが、枝の剪定と同じく、将来を見据えて何を残し、何を切るかを選択することではないでしょうか。高校生の皆さんは、理系・文系の選択、大学受験にむけての科目の選択、あるいは進路の選択に直面して「剪定」を求められているでしょう。中学生の皆さんは、科目選択などの必要性に直面することはなくても、毎日小さな「剪定」を求められているはずです。何かを得るためにはその対価、犠牲が伴うもの。「剪定」とは、生かすために、切ることです。皆さんの眼前にはあらゆる可能性がひろがっていますが、あれもこれもと欲張る余りに、どれにもエネルギーが行き届かないということがないように、この春、桜の樹を見あげて、自分なりの「剪定」を考えてください。

皆さんは将来見事に枝を伸ばし、花を咲かせていける存在だと、私たちは信じ見守っています。最後に聖書のことばを贈ります。

わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

わたしにつながっているが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。

しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。

(ヨハネ 15-1・2)